

## 平成30年度第1回 大船渡市復興計画推進委員会 議事録

日 時：平成30年5月25日（金）13:51～15:55

場 所：大船渡市防災観光交流センター 2階 多目的室

次第	発言者	内 容
1 開会	事務局	<p>本日はお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。</p> <p>本日の会議は概ね4時頃の終了と見込んでいる。その後、4時から当センターの施設見学を行う予定としているのでよろしくお願ひします。主に2階と屋上階を中心に見ていただく。お手元にパンフレットを配布しているので、見学の際にお持ちください。</p> <p>また、本日の資料であるが、資料2を差し替えとしているのでよろしくお願ひいたします。</p> <p>時間前ではあるが委員の皆さま全員お揃いなので、ただいまから平成30年度第1回大船渡市復興計画推進委員会を開催する。</p> <p>議事に入るまで進行を事務局が務める。</p>
2 新任委員紹介	事務局	<p>新任委員を紹介する。委員名簿の右側に「新任」と記載してある。盛青年商工会会長の迎山光様である。前会長の及川様の後任となる。（迎山委員 挨拶）</p> <p>よろしくお願ひします。</p> <p>本日はオブザーバーとして国土交通省東北地方整備局企画部、震災対策調整官の横山修司様にもご出席いただいている。よろしくお願ひします。（横山震災対策企画調査官 挨拶）</p> <p>本日都合により新沼副委員長、家田委員、廣澤委員が欠席となっている。</p>
3 あいさつ	市長	<p>皆さん、本日は大変ご苦勞様です。平成30年度第1回の委員会となるが、皆さま大変お忙しいところ、また、塩崎先生をはじめ数名の方々には遠路お運びいただき、ありがとうございます。</p> <p>平素から市政の各般にわたり何かとご理解、ご支援、ご協力を賜っている。改めてこの場を借りて厚く御礼申し上げる。</p> <p>東日本大震災から7年2カ月余りが経過した。いろいろあったが、おかげをもちましてここまでやってこられたという思いである。復興期間の10年間は前期3年、中期3年、後期4年間となっており、今は復興計画後期4年間の2年目に入っていて、さらなる発展に向け新しい大船渡市の創造を目指す期間と位置付けられている。</p> <p>市の中心部にあるこの建物が今年3月に完成し、4月28日にこの建物を中心に第三期まちびらきを開催した。5月1日には⑧街区に2つの事業所が開所した。賑わいが徐々に増しているところである。</p> <p>しかし、復興期間もあと3年弱残っており、大船渡市の中心部、今嵩上げをしているところ、まだ建物が建っていないところ、それらを出来るだけ早く建物で埋めてしまうこと、市の中心部以外の被災して住宅を建てないこととした土地の利活用をできるだけ広く進める、地域の皆さんと相談・協議し合意しながら、国の予算をつけていただきながら、できるだけ広く進めることが二つ目、そして三つ目に被災した方々の心のケアがある。</p> <p>復興を頑張っていく期間はまだまだ続くが、どうか皆さま方のご意見、ご指導を承りながら進めていきたい。本日は皆さま、どうか忌憚のないご意見を賜りますようお願いして、挨拶に代えさせていただきます。</p> <p>本日はよろしくお願ひします</p>
	塩崎委員長	<p>皆さま、こんにちは。</p> <p>今年度第1回の委員会をこの場で開催することは感慨深い。4月28日にまちびらきがあり、参加してこの建物を視察したが、アクティビティが入っているのを見るのは今日が初めてである。委員会でもこの防災観光交流センターがどんなものになるのかについては何回か議論してきた。大船渡の中心部の核となる施設であることは間違いない。箱としては立派にできたが、今</p>

		後この箱を大いに活用してまちの活性化を図っていくことが、残された3年の課題であると思っている。ここで市の大きな会議ができることも一つのきっかけ、一つのスタートだと思って今日も進めていきたいと思う。 皆さまの忌憚のないご意見をいただいて進めていきたい。よろしくお願いします。
	<b>事務局</b>	資料を確認する。資料は1から6である。 次第4の議事に入る。規定により委員長が議事を務める。塩崎委員長、よろしくお願いします。
<b>4 議事</b> <b>(1) 大船渡市復興計画事業の進捗状況等について</b>	<b>塩崎委員長</b>	議事4の内容はたくさんあるので、半分に分けて、前半は①全般および復興計画事業（主要事業）スケジュールについて、②防災集団移転促進事業、③土地区画整理事業及び津波復興拠点整備事業、について事務局から説明をお願いします。
	<b>復興政策課</b>	① 全般および復興計画事業（主要事業）スケジュール 資料1・資料2 説明
	<b>復興政策課</b>	② 防災集団移転促進事業 資料3 説明
	<b>市街地整備課</b>	③ 土地区画整理事業及び津波復興拠点整備事業 資料4 説明
	<b>塩崎委員長</b>	ありがとうございます。 それでは①、②、③の説明について質問、ご意見をいただきたい。どこからでも結構なのでご発言いただきたい。いかがか。
	<b>塩崎委員長</b>	この建物は「防災観光交流センター」という名前だが、ずっとこの長い名前前で呼んでいくのか。気の利いた短いニックネームをつけないのか。
	<b>災害復興局長</b>	間もなく指定管理者も含めて、この建物の愛称を募集する計画となっている。速からずネーミングを考えていきたい。
	<b>塩崎委員長</b>	わかりました。長い名前を呼ぶのは大変だと思った。 他にいかがか。発言をお願いします。
	<b>佐藤（隆）委員</b>	このセンターの運営であるが、1階では観光物産協会が情報発信をしているが、パンフレットを置くだけではなく。 それと、大船渡だけをターゲットにするのではなく、気仙広域を一体として知らせる情報発信が大事だと思う。運営は観光物産協会であるが、ここをプロデュースする機能、組織、ここに入っている全ての方々の協議会的なものを行政と一緒に、運営機能を作る議論はされているか。
	<b>市街地整備課</b>	観光の情報発信についてお話をいただいた。センターの設置目的である防災の学習、観光資源の情報発信、人の交流、賑わいづくりの実現で、運営の在り方は重要な部分である。特に観光については、各分野の専門家の方々を委員に迎え、運営課題、これからどういった形でやっていけばよいかなどにご意見をいただきながら進めたい。アドバイザーボードというものを設置している。各委員から助言をいただきながら計画して実施し、検証したいということで、PDCAサイクルを重ねながら運営についても検討してノウハウを積んでいきたい。アドバイザーボードは4月27日に第1回の会議を開催し、今年度は2～3カ月に1回のペースで開催を計画している。
	<b>災害復興局長</b>	最初にいただいたお話は気仙広域を知らせるということであったが、どちらかという今現在は大船渡中心である。いただいた視点は重要だと思うので、指定管理者と詰めていきたい。
<b>佐藤（隆）委員</b>	情報発信だが、ポータルサイト「おおふなこ」がすでに立ち上がって活動している。相互に応募したり情報提供したりしてくれる。会員登録が必要だが、そういうところとのジョイント。FMねまらいんもあるが、観光情報だけでなく「おおふなこ」はいろいろな情報を投げかけたり、会員から大船渡のうまいもの、見どころや景色の写真を撮って送ったりする活動をしている。ぜひ「おおふなこ」との連携を。このセンターは大船渡の情報発信拠点とな	

	るので、連携をぜひ図ってほしい。
<b>塩崎委員長</b>	「おおふなこ」とは何か。
<b>企画政策部長</b>	大船渡のポータルサイトで、情報サイトである。利用を図っていただくために工夫を検討し進めているところである。ただいまの件も検討に加えながら進めていきたい。
<b>木下委員</b>	言いたかったことはほぼ同じことである。大船渡の魅力を伝える観光コンシェルジュと平常時の利用目的に書いてあり、情報発信事業としてはパンフレット等の配置、市内催事のチケット販売や特産品の発注受付などと書いてあったので、もう少しやれることがあるのではないかと思ったりした。書いてないだけで実際やっている、考えていることがあるなら聞かせてほしい。大船渡は観光資源がけっこうポツンポツンといいものがあるが、面として大船渡として打ち出せていないと感じていた。それらをつなぐ役割もここは観光の拠点としてやってもらえると、良い施設利用の仕方になると感じた。
<b>災害復興局長</b>	今現在は、まだ正式な活動が始まっていない段階であるが、指定管理者の観光物産協会は基石やその他市内観光施設の管理もしている。それらとの連携を図りながら、また大船渡のまちとの連携を図りながらやっていきたいという気持ちを持っている。また、それについての具体的な話もいただいている。 情報発信はその通りであるが、単なる情報発信ではなく、お話をいただいたとおりの面的なつながりが出るように、大船渡をより魅力的なまちとして紹介できるような仕組みづくりもこれから手掛けられると思っている。市も観光サイドと協力しながら進めていきたいと思っている
<b>江刺委員</b>	このセンターの2階の運営の業務委託を受けているNPO法人おはなしころりの理事長を務めている。佐藤（隆）委員からお話しのあった「おおふなこ」だが、サイトを見ていただいてありがとうございます。自分自身が「おおふなこ」のメンバーになっているので、積極的に連携していこうと思っており、すでに取材を進めて6月には「おおふなこ」に特集を掲載しようと考えている。ただそれだけだったので、その後も定期的に連携して情報発信をしていきたいと思っている。今後とも御覧になっていただければ嬉しい。ありがとうございます。
<b>長坂委員</b>	この施設の関連計画であるが、資料4の2ページ、施設の平常時の利用目的に地域づくり、津波伝承、観光交流、都市間交流などがあって、それぞれが独立してあるように見えるが、結び付けていくと相乗効果があるのではないかと思う。例えば津波伝承と都市間交流を繋いで社会観光の研修のプログラムと結び付けていく。したたかにやって、他のプロットと結び付けて、例えば10万円で1泊2日など伝承のための研修が受けられるなどのプログラムとセットにしていくと、より効果的に都市間交流と津波伝承が行える。そのあたりの施策間の連携、まち・ひと・しごと創生総合戦略と復興事業との関係で、それぞれの計画との相互乗り入れを含めて、どんな方向性で相乗効果を進めていくのか現状を少し聞かせてほしい。
<b>企画政策部長</b>	防災関係、津波伝承館、地域づくり、都市間交流と、現在のところそれぞれで行われている例もあるが、今後、ふるさと納税もあり、新たな取組として考えているところである。新たな取組としてそういう利用もあると考えており、これからも今後復興が進む中で津波伝承について伝えながら、宿泊施設も整ってきたので都市間交流を進めることも一つの方策であると考えられる。交流人口の拡大のためにも様々なことを考えていかなければならないと考えている。一つの方法として検討させてもらおう。
<b>澤田委員</b>	感慨深く土地区画整理事業の進捗状況を拝見した。阪神・淡路大震災の土地区画整理事業は、早いところは5～6年くらいで換地が指定され清算まで終わっているが、一番時間がかかったところは16年2カ月、清算までにかかっている。仮換地や地権者との交渉に時間がかかったこともあるが、33

	<p>ha以上の大きな区域の土地区画整理事業なのに、着手から10年で換地が進んで清算が済んで土地利用が始まるところにこぎつけたのは、あれだけの被災を受けた中では非常に評価してよい。土地利用に関しては、今後は順調に進むことになるだろうが、7年たった時点で事業による復活が進みつつある。神戸と比較してスムーズ、うまく進んでいると思った。ある意味うまく、事前に考えたことが計画通り進んでいる。フィジカル、具体的な物の作り方はこれでいいので、今後は大船渡らしい運営を頑張っていくことが9年目、10年目にやるべきこととしてフォーカスされていくことだと思った。神戸にいたので土地区画整理事業が気になるようになり、時間がかかると思ったが意外に早く進んでいるのでコメントした。</p>
<b>塩崎委員長</b>	<p>コメントということで、ありがとうございます。何か市のほうからコメントはあるか。</p>
<b>市長</b>	<p>復興計画を震災の年に策定した時は、260種類の事業は高い壁のように見えた。だが、継続は力なりということだろう。最初の5年間は1か月に1回、市幹部と復興計画の進捗状況についてフォローアップしてきた。30日経つと様々なところで様々な課題や問題が出てくる。その都度、こちらの方向にいかうか、どうしよう、こうしようとしてきた5年間だった。6年目以降は3か月に1度になったが、それでもその都度つぶしながらやってきた。特に変わったことはやっていない。地味なことをやってきただけであるが、効果が表れているという気がする。</p>
<b>塩崎委員長</b>	<p>土地区画整理事業を神戸との対比で言っているが、ひとつは最初の無用な対立が少なかったことが大きいと思う。神戸はそれが大きく、最初の何年間は何をしていたかわからないくらい時間とエネルギーを費やした。しこりがずっと残っていた。早いところは早くできたが、遅いところではボタンの掛け違いがいつまでもたっても解けない。おそらく今でもしこりに思っている住民が双方にいる。大船渡ではあまりそのようなことがなかったことが、うまくいった大きな要因かと思う。個人的な感想です。</p> <p>そのほか、いかがか。</p> <p>江刺委員に伺いたい、ここの運営に参画しているということだが、アドバイザリーボードに参加しているのか。</p>
<b>江刺委員</b>	<p>アドバイザリーボードは専門家の方々数名で組織されていて、私たちの人材研修という意味合いで捉えている。先生方から先進事例を伺ったり、ワークショップに参加していろいろな気づきをいただいたりしている。そういう場になっている。</p>
<b>塩崎委員長</b>	<p>そこの接点は持っているということか。</p>
<b>江刺委員</b>	<p>まだ第1回目が開催されたばかりである。</p>
<b>塩崎委員長</b>	<p>ここで出ている意見を運営に反映していくルートがあるのか、役所の方が受け取って向こうに伝えていくという間接的なことなのか。委員の方でダイレクトに関わっている人がいたらここでの発言がストレートに届いていくと思ったので、どうなっているのか知りたい。</p>
<b>江刺委員</b>	<p>アドバイザリーボードは、講座を受講させていただきながら、私たちの悩みを相談できる方々であると捉えている。親身になってくださり、聞いていいよ、と言ってくれるので、このセンターを運営するにあたり身近に相談できる相手、場である。</p>
<b>塩崎委員長</b>	<p>市に伺いたい。指定管理者は施設の管理運営を受託している存在だと思うが、その上のレベルで全体を司令塔になって動かしていくのは誰か。管理がうまくいっているかどうかはわかるのだが。</p>
<b>災害復興局長</b>	<p>管理はもちろんだが、事業を起こしたり、賑わいを求めるためにということで、市と指定管理者が一体となって今後の方向性を見極めながら、よい方向に持っていくための協議を重ねている。ここでいただいた協議、ご意見については、アドバイザリーボードの席や指定管理者に直接伝えるなど、市を</p>

	通じて伝えられていくことになる。
<b>塩崎委員長</b>	市の直接の担当部局はどこか。
<b>災害復興局長</b>	災害復興局である。
<b>佐藤（隆）委員</b>	三陸ジオパークの認定が見直しになっている。県に任せるだけではなく、市も積極的に取り組んで、この事業にも三陸ジオパーク事業を位置付けるべきである。お願いできるか。
<b>観光振興室長</b>	ジオパークについては9月に条件付き認定となり、2年後に審査を受ける。岩手県でも三陸ジオパーク推進協議会でも当面の課題、2年後の課題を整理しており、今年度は9月までにそれぞれの地域に推進協議会を作ろうとしている。大船渡も推進協議会はないので、まずは9月までに推進協議会を作り、各団体と連携し、市民も巻き込みながら活動していきたい。
<b>市長</b>	センターの展示スペースであるが、ひとつの業種だけでなく、入れ替わり立ち代り活用できる展示スペースである。市内には様々なボランティア団体、活動団体、大船渡を何とか元気にすっぺという団体がたくさんある。市としてはまちづくりを推進する市民団体から毎年公募で20ケースくらい選定して、まちづくり活動費50万円を交付して市民活動を支援している。このスペースで今までの思いをぶつけてもらう形で情報発信していただく、そういう機会が非常に大事だと思っている。ジオパーク、金にまつわるグループ、観光も様々あり、そういった方々がこのセンターを活用していただける体制に市としても持っていきたい。指定管理者、管理を受託しているおはなしころりんさんにもその思いを受け止めてもらい、情報発信をとにかくバンバンしてもらいたい。情報発信そのものが市の元気につながる。市が元気になってくるとまちも活性化し、経済も活性化し、良い方向に転がる。そこをねらっている。ぜひお願いしたい。行政も見ると、アドバイザリーボードも見て、軌道修正をし、経験を積みながら良い方向に持っていきたい。ぜひご協力をお願いしたい。皆さまからも様々なご意見をいただきたい。
<b>塩崎委員長</b>	ここで5分ほど休憩としたい。 (休憩) それでは再開する。 ④仮設入居者の住宅再建支援について、⑤移転跡地利用計画について、説明をお願いします。
<b>住宅公園課</b>	④ 仮設入居者の住宅再建支援について 資料5 説明
<b>土地利用課</b>	⑤ 移転跡地利用計画について 資料6 説明
<b>塩崎委員長</b>	ありがとうございました。 今の二つの説明について質問やご意見をいただきたい。いかがか。
<b>市長</b>	気づいておられる方もあると思うが、資料2の大船渡市復興計画事業（主要事業）スケジュールの左側から4番目の「事業箇所」欄にピンク色の表示がある。これは被災地の利活用で動き出した事業である。これまでご説明したたくさんの被災地の利活用がある中で、国の予算がついて前に進むことができるようになったものを掲載している。国の予算がつくかどうかかわからない、難しい事業はスケジュール表には掲載していないということをご理解ください。まだまだ、もしかしてスケジュール表に掲載される事業が出てくるかもしれないということは、ご理解ください。この辺が被災地の利活用の難しさである。地域の皆さんと協議して予算がついたので万歳ということもあるし、予算確保が無理だからと地域で再度協議を行い国との協議が整ってということもある。さまざまなケースがある。今そこに差しかかかっていることをご理解ください。
<b>長坂委員</b>	赤崎のスポーツ交流公園の整備であるが、地方創生拠点整備交付金を用いてグラウンド整備に要する予算が認められているものと、この跡地利用の計画

	とは別ということなのか。
<b>土地利用課</b>	ご指摘のとおり、19番は事業の概算工事費が未定となっている。市長が申したとおり、復興交付金事業の該当する事業がないか、一部でも該当するものがないか復興庁と協議している。
<b>長坂委員</b>	赤崎グラウンドの整備費、約4,000万円は認められていないのか。
<b>土地利用課</b>	現在の赤崎グラウンドとは別の件である。
<b>堀籠委員</b>	資料6の2ページに「見込区分」とありA、B、Cとあるが、国のお金が取れるかどうかという意味での見込みという理解でよいのか。
<b>土地利用課</b>	資料上段に「見込区分」の凡例があり、Aが実施中・実施の見込み大、Bは実施の可能性があるが時期等調整、Cは見込みは立っていないもので、見込み区分と進捗状況のところを見ていただくと、実施調整、財源確保は交付金の見込みの立ったものになる。その次に測量設計、工事、完了と進むことになる。
<b>堀籠委員</b>	分類A、B、Cの意味がこれまでよくわからなかった。予算との関連という意味ということがよくわかった。ありがとうございます。
<b>澤田委員</b>	資料6の被災跡地の譲渡・貸付け状況で、③の使われている土地が外出しで綾里、泊、浦浜地区は漁業集落防災機能強化事業に関係して事業がなされていると書いてある。崎浜地区は漁業集落防災機能強化事業に関係していないので追記されていないと理解すればよいのか。
<b>土地利用課</b>	崎浜地区でも被災跡地利用は行っているが、面積が少なかったので外出ししていなかった。
<b>澤田委員</b>	大規模に事業で使っている場合は外出ししているという見方をすればよいのか。
<b>土地利用課</b>	そうである。
<b>佐藤（隆）委員</b>	質問である。みなし仮設で、市内で被災して市外のみなし仮設に入った方は、資料5の表の中でどこにあたるのか。
<b>住宅公園課</b>	資料5のまとめ調書の3列目、右側に「市外みなし」とあり、大船渡市の罹災証明を持っている方を「38」と記載している。それが市外のみなし仮設に入居されている方の数である。
<b>佐藤（隆）委員</b>	建築学会の論文に岩手県沿岸部のみなし仮設に入った方のことが書いてあり、市外のみなし仮設に入った方の4割しか帰っていないということであった。大船渡では何割ぐらいか。
<b>住宅公園課</b>	まだ分析はできていない。市外のみなし仮設入居者は38であるが、大半が内陸の災害公営住宅に入居する方で、相当数戻ってこられない方がいるのは現実である。
<b>長坂委員</b>	跡地利用は国が直接復興交付金の手当てが入れにくく、他の事業を模索しているとのことだった。全国の自治体では企業版ふるさと納税を活用すると、跡地利用の地域ニーズにうまく使え深度化できる可能性があるのではないかと。大船渡市では企業版ふるさと納税を利用した地元ニーズに対応した事業費の確保はどう進めているか。
<b>企画政策部長</b>	ふるさと納税を財源として、どのくらい復興に使っているかについてであるが、特にふるさと納税の目的として集めていくということでは、現在、クラウドファンディングで五葉山の山荘「しゃくなげ荘」の改修を行った。目標金額に到達できず、4%程度の達成率である。73万円ほどの達成率だった。復興目的にすれば集まるかはわからないが、ある程度の返礼品をお返ししながら集めてきたが、そういった状況であった。ふるさと納税については、返礼だけではなく、宿泊など様々な可能性があると思うので研究しながら進めていきたい。全体的にふるさと納税金額は伸びがなくなっているため、工夫しながら進めていく必要がある。

<b>長坂委員</b>	個人版ではなく企業版ふるさと納税の活用についての計画はどうか。
<b>企画政策部長</b>	企業版ふるさと納税も研究しているが、なかなか選定が難しい面がある。できるだけ利用したい方向で研究は進めているが、利用できる方向には行っていない。
<b>長坂委員</b>	自治体で企業版ふるさと納税の使い勝手が悪いということであるが、どのような点が問題となっているか。
<b>企画政策部長</b>	事業が確定して、企業が決まっていなければならないという仕組みになっている。さらに地域計画も作成する形なので、企業とのやりとりのスケジュールが大変で、短期間でやらなければならないので、その辺りが難しい。
<b>長坂委員</b>	また別の席で教えてほしい。
<b>新沼（真）委員</b>	津波防災では避難は徒歩が基本と思う。ここから車に乗っている方が避難しようとするとう国道45号線にぶつかって、震災の時は渋滞で逃げられなくなり犠牲になった方もいた。車を運転している時に津波警報が出て、歩いて避難しようとするとき、前後に車がいって、反対側からも車がきたら、自分一人だけが車を乗り捨てることもできない。となるとそこに居続けなければならない。今度できる道路がある程度幅員が広ければ脇に寄せて乗り捨てるのが考えられる。普段から看板などで、ここは津波警報が発令されたら車を乗り捨てる場所であることを啓発することが必要と思う。BRTから海側の駐車場には車を捨てて歩いて避難することを示して、普段から市民にも初めて来る方にもわかるように意識づけする。車を捨てて高いところに逃げることを発信すべきだと思う。空地が早く埋まればよいということだったが、ある程度空地もあり、駐車場では車を乗り捨てて歩いて逃げることを発信する取組があるとよい。
<b>災害復興局長</b>	この施設からは車を使わない避難はそのとおりである。この辺りを車で走っていて警報が出たときに渋滞することは、ごもっともである。この施設の駐車場に限らず、近くに市の駐車場もできるので、広報等を使いながら大船渡町内に限らず行動できるよう、防災管理室等と相談してできる限り広報させてもらう。ありがとうございます。
<b>佐藤（次）委員</b>	資料6の3ページに綾里地区が掲載されている。どこの地区でも同じだと思うが、復興計画の期間はあと3年くらいしかない中で、計画されている事業の内容を聞くと「現在の状況」にも書いてあるが、なかなか難しいと聞いている。この計画期間が過ぎたら復興交付金は対象にならないので、どのような方法で整備していくのか。市の財源も厳しい面がある中で、対象ではない事業をやっていくことには期間も大変なので、交付金対象とならないもの、県営で防潮堤や漁港を整備しているが、市道の整備も事業の中に入れて、交付金対象とならないときはどのように整備していくか聞きたい。
<b>都市整備部長</b>	被災跡地利用の表で見込み区分がCで、予算的に見込みの立っていないものの中に道路事業の避難路の復旧などがある。復興庁のヒアリングでは理由の説明が通らず予算がついていない。地域の話合いの中で課題をどうしていくか、市の通常事業でも検討しなければならない。特に道路などは復興以外の地域からの要望も多く、どうやって地域からの要望を拾い上げていくかが毎年の課題となっている。市としては復興事業で予定していた規模はできなくても、規模を縮小してでもできないかなどの形で実現の可能性を探っていく。市でできる方策について、地元の皆さんと最小限でできる方策がないかを膝を突き合わせて相談したい。復興交付金がつかなかったからゼロということではなく、市の予算の中でできる方策がないか、あるのかどうか皆さんと相談したい。引き続きよろしく申し上げます。
<b>佐藤（次）委員</b>	綾里だけでなく、被災に遭った地区全部に係る同じ内容である。大変だと思うが、市で重要度、緊急度等を検討して、予算がつかない場合は計画的な整備を検討してほしい。

	<b>市長</b>	<p>付け加える。もっともっと復興庁に訴え続けることはやろうと思っている。</p> <p>今までは国の復興関係者が来ると、大船渡の中心部を見せてくれという。いわゆる着実に進んでいることを見せてほしいという話が多かった。良いところではなく、我々が課題だと思っているところを見てもらうように庁内に指示している。次からはそのようにしてくださいと言っている。</p> <p>課題であるところはCにしか位置づけられていないが、地域としてはこのような課題があると現物を見せながら訴えていく。機会をとらえて復興庁幹部にも必要なことをアピールしたい。要望書には様々なものを添付して、パッと見てよくわかる資料を添付して要望したい。</p> <p>被災地の利活用は一筋縄ではいかない。様々なケースがある。例えば浦浜は昔、越喜来小学校があった。小学校は市の土地だが、その周囲に民有地があり、それを市が買い取った。その中間に民有地が広がっている。これを大きなくりにして、大きな事業者が使いたいときにはみんなでこの土地を貸してもいいですかという了解をもらって、誰か使わないかということもやっている。様々なケースがあるので、ケース・バイ・ケースで柔軟に対応したい。</p> <p>ただし、復興計画期間が過ぎた時点で被災した民有地は相当ある。その民有地については相当な割合で残るかもしれないと考えられる。市有地も利用者が見つからなければそのまま残る可能性もある。行政として計画が立てられないもどかしさがあり、そこを認識してほしい。被災地の利活用は10年間の間はベストをつくすが、間に合わなかった場合には、今後、復興庁がどのような組織に変更になるかはわからないが、何等かの支援措置を国に求めていく。様々なことをしていこうと思っている。</p>
	<b>塩崎委員長</b>	<p>だいたいご意見をいただき、時間も4時に近づいてきた。</p>
(2) その他	<b>塩崎委員長</b>	<p>(2) その他、として委員からご発言はあるか。 事務局からはあるか。</p>
	<b>災害復興局長</b>	<p>参考資料を説明する。</p>
	<b>復興政策課</b>	<p>参考資料(復興交付金事業計画実績評価、復興事業総括と復興記録誌の編纂について(案)) 説明</p>
	<b>塩崎委員長</b>	<p>ありがとうございます。 参考資料についてご質問等、ご発言ください。 事業実績評価、復興事業総括、復興記録誌とあるが、推進委員会の議題として議論するものはどれか。</p>
	<b>復興政策課</b>	<p>事業実績評価と復興事業総括は内部資料となるので、状況を皆さんにご説明することが主になる。復興記録誌がメインで、この会議でご意見をいただきながら検討する。どんな形で作っていくのかご意見をいただきたい。</p>
	<b>塩崎委員長</b>	<p>今後、32年度にかけて作成していくスケジュールか。</p>
	<b>復興政策課</b>	<p>そうである</p>
	<b>塩崎委員長</b>	<p>今日はこれについて深く議論する時間はない。今後こういうことが議題として上がってくることをご承知いただきたい。この時点でご意見はあるか。ご意見等はないようなので、事務局に進行をお返しする。</p>
5 その他	<b>事務局</b>	<p>次第5 その他、に移る。</p>
	<b>事務局</b>	<p>今後のスケジュールについてである。 次回の進捗状況とりまとめは9月末となる。委員の皆さんには第2回委員会でご協議いただく。開催時期は追って連絡する。</p>
6 閉会	<b>事務局</b>	<p>その他、皆さま方から何かあるか。 以上で本日の委員会を閉じさせていただく。ありがとうございました。 引き続き、防災観光交流センターの施設見学があるので、お手元のパンフレットをお持ちください。解散は適宜となる。2階と屋上を中心にご案内する。</p>



